

総合型選抜試験（A 日程）

テーマ面接の資料

人間福祉学科（心理カウンセリング専攻）

テーマ面接で扱うテーマ

人はなぜ同調するのか（別紙資料参照）

注意事項

- 別紙の資料をよく読み、テーマについて心理学関連の書籍も使って調べ、内容について理解しておくこと。
- このテーマを自身の経験と関連付けて考えを整理しておくこと。
- 面接等評価 30 分のうち、10 分はテーマ面接を行う。
- テーマ面接では、どのような心理学関連の書籍を用いて調べたかについても尋ねる。

テーマ面接の別紙資料

人間福祉学科（心理カウンセリング専攻）

アメリカの社会心理学者であるソロモン・アッシュは、「同調」に関する実験を行いました。

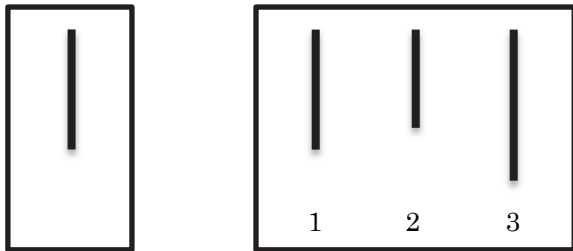
1956年に報告されたこの実験では、8人程度のグループを作り、基準となる1本の直線と、長さの異なる3本の直線を提示しました。そして、3本の直線の中から、基準と同じ長さのものを一つ選び、参加者に順番に口頭で回答させました。

ただし、グループのうち実際の実験参加者は1名のみであり、残りのメンバーはあらかじめ指示を受けた協力者（サクラ）でした。課題は全部で18試行あり、そのうち12試行では、サクラが全員で一致して、わざと誤った回答をするように指示されていました。例えば、図1のような場合、本来は一番左の1番の直線が正しい答えですが、サクラは全員そろって一番右の3番の直線を正解として回答しました。また、実験参加者は基本的に、グループの中で最後から2番目に回答をするよう求められたため、他のメンバーの回答を聞いた上で自分の答えを決める状況に置かれていました。

この実験を123名に対して実施したところ、29名の実験参加者は、サクラが誤答している場合でも一貫して正しい回答を行いました。一方で、残りの94名は、12試行のうち少なくとも1試行において誤った回答をしました。12試行全てで誤った回答をした実験参加者も6名いました。12試行における123名の平均誤答回数は、4.41回でした。

この課題はとても簡単であり、一人で判断する場合にはほとんど間違えることはありません。それにもかかわらず、なぜ多くの実験参加者は誤った回答をしてしまったのでしょうか。

図1 アッシュの同調実験のイメージ図



基準となる直線

出典

Asch, S. E. (1956). Studies of independence and conformity: I. A minority of one against a unanimous majority. *Psychological Monographs: General and Applied*, 70(9), 1–70.